

科目名		神経内科学特論	
科目責任者		足立 弘明 (神経内科学 教授)	
開講時期:	1～2年次	単位数:	6 単位
		時間数:	90分× 45 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>神経疾患・筋疾患・心療内科疾患の症候学、病態について理解を深める。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 神経軸索輸送の種類、およびその作動原理を概説できる。</li> <li>2) 神経細胞膜に局在する受容体の種類、およびそのシグナル伝達機序を概説できる。</li> <li>3) 神経細胞内小器官の種類、およびその構造を概説できる。</li> <li>4) 神経細胞内小器官の機能、およびその機能を担う分子を概説できる。</li> <li>5) 神経細胞ネットワークの機能的連関を説明できる。</li> <li>6) 神経細胞機能解析における細胞生理学的アプローチの手法を説明できる。</li> <li>7) 神経細胞機能発現に関与する分子の動態を説明できる。</li> <li>8) シナプス情報伝達を概説できる。</li> <li>9) 神経疾患・筋疾患・心療内科疾患の診察法を概説できる。</li> <li>10) 神経疾患・筋疾患・心療内科疾患の検査法を概説できる。</li> </ol>			
● 評価方法	検討会での討論30%・発表30%・レポート40%等で総合評価する。		
● 参考文献	講義の中で必要に応じ紹介する。		

授 業 項 目 (内 容)
神経疾患の症候学
筋疾患の症候学
心療内科疾患の症候学
神経細胞機能発現に関与する分子の機能と病態への関与
神経細胞ネットワークの機能連関
神経細胞内小器官の種類・構造・機能・分子局在
分子生物学的アプローチの種類
細胞生物学的アプローチの手技
細胞生物学的アプローチの意義と問題点
モデル動物の種類と管理方法
モデル動物の生化学的解析方法
モデル動物の病理学的解析方法
疾患関連遺伝子の解析方法
新規治療法開発研究の方法
トランスレーショナルリサーチの実践法